

教科	工業	科目名	建築構造設計	単位数	2
学科	建築	学年	3 学年	履修区分	選択
使用教科書	「建築構造設計」(実教出版)				
副教材など	「基本式の理解と活用 建築構造設計」(実教出版), 各種補助プリント				

### 1. 科目の目的

- ① 建築構造設計に関する基礎的な知識と技術を習得することをめざす。
- ② 構造物を合理的に設計する能力と態度を身につけることをめざす。

### 2. 授業の内容と進め方

本校では、講義のみの授業にならないように、教科書を理解させるだけでなく、実習科目と連携をとって各種資格試験の取得にもつながる知識を習得させる。

### 3. 学習する上での留意点

構造物の荷重や応力などの現象についても、実際の・体験的な学習を多く取り入れます。各小携をとって各種資格試験の取得にもつながる知識を習得させる。

### 4. 課題等について

各課題ごとに、学習到達目標に達しない生徒は、補習を実施します。

### 5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	建築物の力学的な事物・現象に関心を持ち、的に取り組んでいる。
思考・判断・表現	建築物の力学的な事物・現象を総合的に考え、事実に基づき合理的に判断できる。
技能	建築物の力学的な事物・現象を力学的な探求する技術を身につけ、過程や結果を的確に表現できる。
知識・理解	建築物の力学的な事物・現象についての基礎的な原理・法則を理解し、知識を身につけている。

### 6. 評価の方法

成績評価の方法

- (1) 出席状況。
- (2) 授業の取り組み状況。
- (3) 授業ノートの内容。
- (4) 演習ノートの内容。
- (5) 定期テスト。
- (6) 小テストなどにより総合的に判断する。

《指導計画》 科目名 建築構造設計

3 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	第6章 鉄筋コンクリート構造 第7章 ア 鉄筋コンクリート構造	実際の建築物をモデルに構造計算書の作り方を理解する。  各自に異なった寸法の建物を計算させる。	ノート提出 (各自の数値データで計算)  中間考査  期末考査
	5	(イ) 概要 (ロ) 鉄筋とコンクリート 中間考査		
	6	(ハ) 鉄筋コンクリート部材の性質		
	7	イ 許容応力度設計 期末考査 (イ) 構造計画		
	9	(ロ) 準備計算 (ハ) ラーメン部材に生じる力の計算		
	10	中間考査 (ニ) 梁 (ホ) 柱		
	11	(ヘ) 剪断補強		
二 学 期	12	期末考査 (ト) 定着・付着	部材の寸法と材質から、荷重計算を行う。  不静定ラーメンの解法で、部材の応力計算を行う。  配筋量を求める。  配筋量を求める。  安全について考える。	中間考査  期末考査
	1	(チ) スラブ	配筋量を求める。	期末考査
	2	(リ) 基礎 (ヌ) 耐震壁		
	3	(ル) 地震に対する安全性の確認 期末考査		
三 学 期	3	期末考査		